

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル 1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ギター専攻	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：ギターバックイングまる覚え、ギター無窮動トレーニング				
担当教員情報					
担当教員	加茂		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
楽器を演奏するには肉体的動作を物理的にコントロールできることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ギタリスト）を想定し、クラシック式フィンガリングによるクロマチック演奏とバレーコード、何弦何フレットの音が何の音か、ネックの端から端までビジュアル的なイメージができること、3コードブルースのバックイングやマイナーペンタを使用したブルースセッションに対応できるスキルの体得を目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。ハーモニー的にはMajorダイアトニックコードを網羅しながらギターの指板に対して音名がビジュアル的にイメージできるように「指癖に頼らないギタリスト」としての到達目標を掲げる。一方でDiatonic Chordにオブリガートを加えて伴奏を弾くなど、世界的なギタリストのフレージングを学ぶ事によって良いフレーズを指癖としてストックするということも逆説的に行う。「ゲーミフィケーション」として教科書だけではなく具体的な楽曲を攻略し、「定期ライブに出演」する際のレパートリーとしていく。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	機材のセットアップについて		グレード1対応。ギター、エフェクト、ピックアップ、真空管アンプについての各要素を学ぶ。		
2 回	トーンコントロールについて		ピックアップセクター、トーン、ボリュームノブ等を調整しながら演奏する手法を学ぶ。		
3 回	コードストローク		裏拍やシンコペーションにおける空ピックアップの手法を学ぶ。		
4 回	和音と単音のピッキング		ピッキングの振幅を調整する、手首のスナップ手法について学ぶ。		
5 回	クロマチックの演奏		手首のスナップと、親指の屈伸型ピッキングについて学ぶ。		
6 回	バレーコード(1)		Major、minor、7th、の5弦・6弦ルートのコードフォームについて整理する。		
7 回	バレーコード(2)		Major7th、minor7th、minor7th(♭5)、dim、7th(#5)のコードフォームについて整理する。		
8 回	フィンガーボードの視覚的理解(1)		コードのルート音を中心にフィンガーボードを暗記できるようにする。		
9 回	フィンガーボードの視覚的理解(2)		C Major Scaleの各音（白鍵盤）のフィンガーボードを暗記できるようにする。		
10 回	フィンガーボードの視覚的理解(3)		ピアノの黒鍵部分のフィンガーボードを暗記できるようにする。		
11 回	ブルース(1)		グレード5対応。マイナーペンタトニックと、ブルース12小節の演奏フォーマットを確認する。		
12 回	ブルース(2)		グレード5対応。イントロ、エンディングについてのフォーマットを確認する。		
13 回	ブルース(3)		グレード5対応。ターンアラウンドフレーズについて理解する。		
14 回	ブルース(4)		グレード5対応。マイナーペンタ発でイントロ～エンディングまでをインプロヴィゼーションする。		
15 回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース　ベース専攻	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	教科書：１００年使えるベースのエチュード（リットーミュージック）、はじめてのジャズベース（リットーミュージック）				
担当教員情報					
担当教員	谷　源昌		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
演奏家にとってリズム、ハーモニー、メロディーを理解することはとても重要である。その為に、個々に合った正しい姿勢（楽器の構え方）を身につけ、左手のフォーム、右手のフィンガリング、両手のコンビネーションをストレスの無い（手に負担の掛からない）奏法を習得することを目的とする。様々なビート（８ビート、１６ビート等）でグルーブ感を養う。コード進行を理解して演奏し、読譜力を身につけていく。指板上の運指を研究し、音に表情のある表現力を学ぶ。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード１～５に準拠して授業が進行する。基礎的な運指での基礎トレーニング。メジャースケール、メジャー・マイナーペンタトニックスケールの運指を指板上で研究・理解・演奏して、コードのルート音、コードトーンを弾けるようにする。リードシートを読み解きながらルート音を基本とした演奏を行えるミュージシャンとしての基礎力を技能として体得することを到達目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で行う。教科書「１００年使えるベースのエチュード(リットーミュージック)」を使い運指を学び、読譜力を高める。教科書「はじめてのジャズベース(リットーミュージック)」では、グレードに対応させながらスタンダード曲を中心コード進行や様々なビートを学ぶ。グレードの内容に応じてオリジナルのマイナスイワンやCDを用いて授業を行う。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備　考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（１回～１５回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
１回	オリエンテーション		使用機材・楽器のセットアップと受講マナーを習得できる。		
２回	Major scale（１）		グレード１対応。Major scaleを１オクターブ演奏出来る。		
３回	Major scale（２）		グレード２対応。Major scaleを２オクターブ演奏出来る。		
４回	Major pentatonic scale（１）		グレード３対応。Major pentatonic scaleについての理論がわかる。		
５回	Major pentatonic scale（２）		グレード３対応。Major pentatonic scaleを１オクターブ演奏出来る。		
６回	Minor pentatonic scale（１）		グレード３対応。Minor pentatonic scaleについての理論がわかる。		
７回	Minor pentatonic scale（２）		グレード３対応。Minor pentatonic scaleを１オクターブ演奏出来る。		
８回	Minor pentatonic scale（３）		グレード３対応。Minor pentatonic scaleを活用したベースラインを演奏出来る。		
９回	ダイアトニックコード（１）		グレード４対応。ダイアトニックコードについての理論がわかる。		
１０回	ダイアトニックコード（２）		グレード４対応。コード進行のルート音を理解し演奏出来る。		
１１回	ダイアトニックコード（３）		グレード４対応。コード進行のルートと５度を使ってベースラインを演奏出来る。		
１２回	Blues（１）		グレード５対応。ブルースコード進行の理論がわかる。		
１３回	Blues（２）		グレード５対応。ブルースコード進行のルート音を演奏出来る。		
１４回	Blues（３）		グレード５対応。進化系のブルースコード進行のルート音を演奏出来る。		
１５回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル 1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ドラム専攻	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回、資料を配布する。 教科書STICKCONTROL,SYNCOPATION,ドラムパターン大辞典326				
担当教員情報					
担当教員	前田		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
ドラムを演奏するには無理のない姿勢で合理的な体のコントロールができることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ドラマー）を想定し、様々な音符をスムーズに叩き分け、力みのない心地よいキレのある音色、ドラミングを目指し、またそれぞれのリズムの持つ特徴を理解して、その曲がもめているフィーリングを瞬時に見極めるスピードのある対応力を鍛え、人間味のある血の通ったドラムを演奏出来ることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。正しいセッティング、フォーム、スティックの持ち方から、基本的な 4 分音符、 8 分音符、 3 連符、 1 6 分音符の音価を正しく理解し、またドラミングにおける最重要要素の 1 つでもある「休符を感じる」感覚を育て、ドラミングにおいて最も多く使われるオルタネイトスティッキングを無理なくリラックスして演奏できるようになる。またアクセントを自在に操れることで立体感、躍動感のあるドラムが叩けるようになる。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（手、指や身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら、受講していただく。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1 回～1 5 回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	セッティングとフォーム		グレード1 対応。セッティングとフォームがわかる。		
2 回	音符と休符（1）		グレード2対応。4分音符、8分音符 またそれぞれの休符を理解し、叩ける。		
3 回	音符と休符（2）		グレード 2 対応。16分音符、3連符をオルタネイトスティッキングで叩ける。		
4 回	バスドラムについて		グレード1 対応。バスドラム、フットペダルの特徴を知り、正しい踏み方ができる。		
5 回	8ビートとフィルイン（1）		基本的な8ビートを叩き、8分音符のフィルインが叩ける。		
6 回	8ビートとフィルイン（2）		様々な8ビートを叩き、16分音符、3連符のフィルインが叩ける。		
7 回	リズムの基礎（1）		グレード3対応。フル、ダウン、アップ、タップストロークを正しく理解し、叩ける。		
8 回	リズムの基礎（2）		グレード 3 対応。4分、8分、3連符、16分音符をつなげて叩くチェンジアップができる。		
9 回	シングルストローク（1）		グレード4 対応。16分休符をランダムに含んだフレーズをナチュラルスティッキングで叩ける。		
1 0 回	シングルストローク（2）		グレード4 対応。ランダムな休符を含んだ3連フレーズをナチュラルスティッキングで叩ける。		
1 1 回	リズムの基礎（3）		グレード 3 対応。付点4分、付点8分音符を理解し、叩ける。		
1 2 回	アクセント（1）		グレード 5 対応。16分音符のアクセント移動が叩ける。		
1 3 回	アクセント（2）		グレード 5 対応。3連符のアクセント移動が叩ける。		
1 4 回	アクセント（3）		グレード 5 対応。フィルインのなかでアクセントを移動させて叩ける。		
1 5 回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル 1
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコースキーボード専攻	開設期 前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習	
教科書/教材	参考書：キーボードバックイングまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング、ピアノのテクニック			
担当教員情報				
担当教員	佐久間		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン
学習目的				
楽器を演奏するには自分の指や体を物理的にコントロールし、思いのままに演奏できることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ピアニスト、キーボーディスト）を想定し、クラシック式フレーズから左右の各指の独立が出来るようにする。また、鍵盤間の距離を完全に体感し、自分の体の一部のように演奏出来るイメージを作り上げる。単音フレーズはもちろんの事、3コードバックイングを始めとする簡単なコード進行のバックイングを学ぶ。				
到達目標				
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。AnyKeyのメジャーダイアトニックコードを網羅し、自分が弾いている音階がきちんとイメージ出来るようにする。また、ただ単にコードを弾くだけではなくオブリを含めた簡単な味付けのレパートリーを増やす。その際は自分の手癖だけではなく、往年の名曲等から他のミュージシャンのフレーズ等も学びながら自分のレパートリーに加えることができることを到達目標とする。				
教育方法等				
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら、受講していただく。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容		各回の到達目標	
1 回	自分の弾く楽器について		グレード1 対応。鍵盤の簡単な作り、音の構成がわかる。	
2 回	フォームについて		正しい指の形、運指を身に付けるための基本的なフォームがわかる。	
3 回	和音について		グレード2 対応。和音を押さえる際のテクニック、手、腕を含めた正しいフォームで演奏できる。	
4 回	黒鍵を含めた和音の演奏(1)		グレード3 対応。調号3 つまで(＃系)の長音階を片手で演奏できる。	
5 回	黒鍵を含めた和音の演奏(2)		グレード3 対応。調号3 つまで(♭系)の長音階を片手で演奏できる。	
6 回	両手を使った運指(1)		グレード4 対応。ハノン、教科書「ピアノのテクニック」を使用して運指を習得する。	
7 回	両手を使った運指(2)		単音だけではなく、コードを使った両手演奏ができる。	
8 回	アクセント、レガート		ただ音を弾くだけではなく、任意の場所のアクセントを入れたフレーズを演奏できる。	
9 回	スタッカート、指変え		前回の手法にアクセントを加え、より幅広いレンジのフレーズを指変えをしながら演奏できる。	
1 0 回	8、16分、3連符		4分音符だけでなく、様々なリズムに対応したテクニックを習得する。	
1 1 回	バックイング(1)		グレード5 対応。BPM60に設定し、Cメジャーキーで4分音符で演奏できる。	
1 2 回	バックイング(2)		同様にBPM60に設定しながら、黒鍵が含まれるキーでの4分バックイングが演奏できる。	
1 3 回	オブリ(1)		4分音符の間、次のコードへ移行する時に簡単なオブリが演奏できる。	
1 4 回	オブリ(2)		経過音、オブリ、強弱やこれまでの演奏手法を意識して正確なバックイングが演奏できる。	
1 5 回	まとめ		全体のまとめ	